参考資料4

南アルプス市芦安グランドデザイン（案）に対するパブリックコメント手続実施結果

パブリックコメント手続を実施した南アルプス市芦安グランドデザイン案につきまして、市民の皆様から貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。お寄せいただいたご意見を参考にして、このたび南アルプス市芦安グランドデザインを策定いたしましたので、ご意見の概要と市の考え方および策定した計画を以下のとおり公表します。

1　意見募集期間　　平成30年2月5日～平成30年3月6日

2　意見提出件数　　25件（　3人）

3　問い合わせ先　　市役所　政策推進課　行政運営統計担当　電話055-282-6073

4　南アルプス市芦安グランドデザイン（提出意見の検討結果を反映して策定した計画）

5　ご意見の概要と市の考え方

番号	分類	お寄せいただいたご意見
市の考え		
1	南アアルプス芦安山岳館のライブカメラによる情報発信	夜叉神峠に設置されたカメラのライブ配信することの利点を全く理解することができない。 ライブ映像を楽しむ人は少なく、登山を促すことにつながると考えられない。 高いお金をかけても維持費のことを考えると、高価な品は導入しない方が良いのではないだろうか。
・映像による広告が有効であると判断し、幅広い層の方に美しい映像を提供することで、興味を持っていただけると捉えております。登山愛好者が閲覧するサイトへリンクさせることで、夜叉神峠や白根三山への登山を促し、芦安地区の誘客につながるものと考えております。 ・現在のライブカメラの老朽化に併せて改修を検討しておりますが、導入にあたっては、最小の費用で最大の効果が得られるものにしていきます。		
2	共同売店の出店の検討	芦安の道の悪さを考慮すると、商店があったところで、多くの車を運転しない高齢者は商店と自宅を徒歩で行き来できないであろう。よって、買物に不便を感じている高齢者の方々への対応策として、商店出店を目指そうとしないほうが良い。 また、事業案において、”地域住民が主体となった運営組織を設立し、住民有志が交代で店番をする”との記載があるが、商品調達から経営までを住民でやっていけるとは思えない。芦安に人がいない状況で、商店を運営する人材や、店番をしてくれる住民を確保することができるのか。最終的には、住民同士で責任を押し付け合い、さらなる人口減に繋がる可能性も否定できないのではないか。
・共同売店出店については、過疎地域で小規模な商店出店事業を展開する事業者と、芦安地区の視察を繰り返して検討しています。この事業者は地域住民と協力して人口約300人の集落において共同売店を実現しており、素人でも仕入れや発注が容易な仕組みを提供しています。今すぐに実現することは困難ですが、将来的に必要であるものなので長期的な視点で検討は続けていくこととしています。その検討の中で、出店に際しては持続運営可能な売上を確保する観点から、芦安地区の住民に加え、登山シーズンの観光客も対象として取り込む必要があり、これは都市部との交流にも有効であると考えています。そのためには拠点となる店舗が必要であることから、先ずは店舗形式での出店を検討しています。 ご指摘のとおり、地理的な条件から移動販売車の有効性や需要にも話しは及んでおり、今後、運営主体（組織）や店舗の設置場所を始め、地域の皆様と検討を繰り返していく必要があるということから、事業案として位置付けています。 ・商店運営のノウハウや指導、相談についても、事業者からアドバイスを受けられることと、地域の商店を地域で守り育てていく（続けていく）という機運の醸成無くしての出店はあり得ないことから、特定の人に責任が及ぶということはないと考えています。 ・将来的に出店した際には、芦安地区に雇用も創出できると考えています。		

3	ひとり暮らし高齢者に対する見守り活動	芦安中学校の生徒がひとり暮らしの高齢者に声かけ活動を行う取り組みを検討していくという内容であるが、中学生に本活動をさせるのはあまりにも荷が重すぎるのではないだろうか。昨日まで元気だった人が突然亡くなった時の生徒の精神への負担を考えると、とても中学生にやらせるべき活動ではない。よって、見守り活動を行ってくれる大人を本活動には配置すべきである。
・高齢者の見守りの他、異世代間の交流も視野に入れた事業案ですが、郵便物がたまっている場合は新聞店に連絡することになっているので、その方法を継続し、実施の際には考慮したものとしていきます。		
4	外国語教育の充実	単にALTの勤務時間を増やしたところで、児童・生徒の外国語能力が向上するとは到底考えられない。 また、スカイプなどを利用して海外の学校との交流を図ることを検討していくとあるが、時差や互いの言語能力のレベル、カリキュラム等様々なことを考慮しなければならず、簡単なことではない。 そこで、上記のことを実施するのではなく、年に1回海外での研修を行うことを検討していくのはどうであろうか。研修目当てで、他の地域からの転校生も増加するかもしれない。 研修内容としては、南アルプス市の国際交流協会が行っている姉妹都市派遣事業のようなもので良いと思う。また、金銭的な問題を解決するためには、クラウドファンディングや富士吉田市のようにふるさと納税を利用し、留学資金集めを行うことができるかもしれない。
・ALTを活用した英語教育については、今後も定着に向けて、時間や方法、カリキュラム等の検討をし、効果が出せるよう、より一層、内容を検討していきます。 ・スカイプを使った活動も教育委員会として、実施を検討していくこととしていますので、言語能力のレベルアップを図るカリキュラムの検討や、実施可能な相手校の選択も含めて検討し、スモールメリットを活かした英語教育を実施していきます。 ・国際交流協会で実施する姉妹都市派遣事業についての募集は市内の全中学校と、市内在住で市外の中学校に通う生徒に対して広く募集しており、過去（平成27年度）に芦安中学校からの参加もあったことから、今後も同様に続けていきますが、個別の派遣や資金集めの方法については今後、検討していきます。		
5	空き家を活用したカフェの開設	カフェは果たして本当に必要であろうか。住民アンケート調査では、カフェ開設に対して肯定的な回答割合が半数を占めたとあるが、いかにも住民が望んでいるという様に示すのは間違いではないだろうか。 芦安地区の道は険しく、高齢者がわざわざ時間をかけて徒歩でカフェまで足を運ぶとは考えられない。カフェというと女性たちが友人とお茶をする場というイメージがあるが、芦安の外に住む友人にわざわざ僻地の芦安まで足を運んでもらおうという気にはならない。 男性も、無尽ができたら利用する可能性はあるが、営業時間やメニュー等を想像すると考えられない。加えて、最近の若者はSNSに写真を載せるために訪れることもあるが、芦安には若者がいないので集客が見込めない。 以上のことを考えて、芦安の住民にとってカフェは不必要である。観光客にとっても、アンケートで3割ほどしかカフェに”立ち寄る”と回答した居ない点から、必要ないと言ことができるのではないだろうか。
・ここで言う「カフェ」には「飲食店」等を含めて検討しています。共同売店と同様、無理のない出店と運営の方法も含めて検討を続け、都市部の住民との交流や、地域に住む住民同士の交流の場にと考えています。移動販売と同様に運営主体ができ、カフェへの送迎も可能であれば、実施を検討していきたいと考えています。 ・最近、田舎暮らしに憧憬を持つ人も増えており、「田舎カフェ」的なものも全国的に増えてきています。芦安地区ならではの田舎感を醸し出すカフェが出店できれば、足を運んでもらえると考えています。SNSを活用した情報発信にも取り組んでいきます。 ・商店と同様、将来的に出店した際には、芦安地区に雇用も創出できると考えています。		

6	しょうゆの実の提供による知名度向上	「しょうゆの実」はとても万人受する様な食品ではないと考えられる。芦安の住民は、名物は何かと聞かれると、「しょうゆの実」と回答する習性がある。伝統料理として誇りを持ち、その伝統を受け継いでいこうとする意思はとても良いことであるが、万人受しない様な食品を名物として売りにしていくことは、無理があるのではないだろうか。 しょうゆの実の商品化等、しょうゆの実に関してお金をかけるのではなく、より万人受し、名物になりそうなものに投資していく方が良いと考えられる。
・しょうゆの実については、様々な意見があることは承知しますが、誰もが異口同音に発することから、これほど地域に根差した特産品は無いとも考えられます。また、しょうゆの実は、近年関心が高まりつつある発酵食品であり、希少性も備えていますので、様々な可能性を秘めているとの意見もありますので、ご指摘のように、より万人受けするものとなるよう、住民や関係機関と連携して調査研究していきたいと考えています。		
7	芦安のイベント情報の配信	“「南アルプス市芦安新緑やまぶき祭」**などの**既存イベントの情報を配信し、集客につなげる“とあるが、現状として、やまぶき祭り以外のイベントは芦安に存在していない。 また、唯一のイベントであるやまぶき祭りの内容に関しても、華やかさはない。質素、かつどこでも体験できる様なイベントだけではとても観光客に楽しんでもらうことは不可能であり、ツアーの企画を組んでもらえるほどのものではない、と言える。 よって、イベント情報の配信を行う前に、まずは芦安でのイベントを増やすとともに、その内容を充実させることから始めるべきであると思う。
・やまぶき祭については、実行委員会が主体となって取り組んでいることから、多くの皆様のご意見をいただきながら、より良いものになるよう、市も協力していきたいと考えています。また、実施時期によって、他のイベントとのタイアップ等も検討し、芦安地区への来訪者の増加につなげたいと考えています。		
8	芦安グランドデザインについての意見	ここで言う“芦安”とは地域と住民を一体で捉えなければならない。 グランドデザインとは、将来の“芦安”を、“どのようにデザイン”するのか、という全体構想で、地域住民の賛同と行政の意志を感じるものでなければならない。 　20年後の芦安をどのようにイメージしているのかが全く見えない。 　本報告書が“グランドデザイン”という位置づけならば、過疎自立計画の基礎になったと言われている“芦安将来構想”との関係をどのように理解すればいいのかも分からない。 先ず、この“芦安グランドデザイン”とは、どういうものなのかを説明頂きたい。
県道甲斐早川線(早川芦安連絡道路)の開通に伴い、芦安地区の交通利便性は大きく変化します。奈良田地区の交通利便性も向上することから、登山客の分散化が考えられます。また、芦安地区は人口減少に歯止めがかからず、300人を割り込むことも懸念されています。『芦安グランドデザイン』は、芦安地区の交通条件の変化への対応、人口減少の抑制、地域経済の活性化に向けて、芦安地区が取り組むべき対応策を示した計画書になります。		
9	芦安グランドデザインについての意見	HPに掲載されているパブコメ対象文書は、名称も内容も忠実に仕様書に従い、ーシンクタンクがアンケート調査を基に作成した“周辺道路整備と芦安の観光への影響と当面の事業提案”と題したレポートにすぎない。 観光という面でも20年先という長期スパンで見れば、視野の広い社会の変革なども取り入れ、もう少し大胆な夢のある提言が欲しい。 提言はビジョンがないまま、現時点で必要な細かな施策を並べたものにすぎない。 報告書の構成も提言と調査資料が混在したものになっており、読みにくい。 本文は簡潔にまとめ、調査資料等は付属資料として分けた構成の方が見る人には分かり易い。 これでは、はたして報告書自体がどのくらい読まれるだろうか。
提案させていただきました事業案は、「絵に描いた餅」にならないよう、できる限り実現性の高い取り組みとしており、今後、住民や関係者と検討しつつ、実現を図りたいと考えております。 　事業案の検討に際して、住民の方々のご意向を把握するとともに、宿泊施設、宿泊客、登山愛好者のニーズも確認しながら作成しております。報告書の要点を把握しやすくするため、報告書概要版を作成致します。		

10	芦安グランドデザインについての意見 1章について	1）仕様書への意見 趣旨を見ると、“南アルプス市”の観光拠点という視点から、周辺道路整備と芦安の観光振興が主目的のように見える。読む人に誤解を与えないために、名称を“グランドデザイン”ではなく“周辺道路整備と芦安の観光への影響と当面の事業提案”に変更した方が適している。“芦安地区の現状と課題”でも、観光の観点のみで住民の目線に立った問題点や人口流失の原因などには一切触れていない。 グランドデザインならば、本来の目的は、合併を契機に急速に人口減少に陥り、地域の存亡にかかる事態にある芦安の将来ビジョンをどの様に描くのか、が主要テーマでなければならない。社会的情勢の変化＝周辺道路完成に限定、ともとれる仕様にしたため、検討内容が狭い範囲のものになってしまった。経験・知見のあるシンクタンクの能力を活用するために、芦安振興に必要な全方向的な提言をフリーハンドで求めるべきであった。
早川芦安連絡道路の開通が予定されることから、芦安地区の交通利便性は大きく変化していくことが予想されます。こうした社会情勢の変化を踏まえて、芦安地区の活性化に向けた将来ビジョンが必要となってきたことから、芦安グランドデザインでは、将来的に取り組むべき、対策を示しております。仕様書の書き方により受託者の検討範囲を左右する可能性もありますので、今後の委託調査では、自由な提言を促しつつ民間事業者の活用を検討します。		
11	芦安グランドデザインについての意見 1章について	2）検討・作成方法 地域振興には、住民の理解を得、一体で取り組まなければならない。 行政とシンクタンクが作成したビジョンを地域に押し付けるのではなく、住民等も参加した検討委員会を設置し、シンクタンクの支援を受けながら全体像を描かなければならない。 山梨学院大と芦安みらいサロンで作成された“芦安将来構想”の方が住民参加型であり、まだ夢もあり、ビジョンとしては優れているように思う。
全世帯を対象としたアンケート調査を実施し、住民の方々のご意向を把握した上で「芦安グランドデザイン」の事業策を検討しております。事業策を実施していく段階で、住民の方々にご参加いただくことを検討しております。		
12	芦安グランドデザインについての意見 1章について	3）地域と市の認識のすれ違いが目立つ 芦安の過疎化対策と言えば、市は“市の観光拠点”の活性化と捉えるが、芦安では生活の選択肢が狭まれ、日常生活に不便を強いられる生活環境の改善が問題となっているのである。
報告書では、観光振興策とともに、「第6章　集落の活性化策について」として、芦安地区の不便さの改善などについて検討致しました。芦安住民の暮らしを守る施策、人口減少抑制に向けた施策、雇用創出に向けた施策と事業案を提案しており、これらを段階的に実現して、芦安地区の生活環境を改善してまいります。		
13	芦安グランドデザインについての意見 1章について	4）報告書に欠落している視点 20年先を見通したものならば、インバウンドの進行、シニア観光客の増加等の観光環境の変化やAI＆IOT、自動運転技術等の技術革新、再生可能エネルギーの普及など過疎地にも影響が及ぶ社会変革を考慮しなければならない。これらについては全く言及がないは残念である。
・ご指摘いただきましたように、今後、インバウンドの進行、シニア観光客の増加、AIやIOT技術の発展などが予想されます。現段階では、芦安地区への適性など見通ししにくい側面もございますが、貴重なご提案として、取り入れさせていただきます。芦安地区の魅力向上に向けた地域活性化策、旅行代理店と連携した登山ツアーの提供などの施策に、インバウンド、シニア観光客に関するご提案を反映させた事業案を盛り込みます。		

14	芦安グランドデザインについての意見 2章について	2章　芦安の現状と課題 　芦安の概況、アンケートなどはあるが課題の記載がない。何が課題なのか、明示すべきである。 概況として、人口、産業のほか地理的特性として交通面を取り上げているが、観光地としての芦安の特色、魅力、補強が必要な面（物足りない点）なども記載した方が良い。 6. 将来の人口推計について 　こども女性比を南アルプス市の値を用いているが、南アルプス市の人口ビジョン（地区別人口指数の推移）を見ると、芦安だけ人口流失のために全く異なったトレンド（若い女性減少）をしている。これでは同じ母集団と見做すには無理があるのではないか。 コーホート変化率も2点の平均のみ、将来推計としては極めて粗いものと言わなければならない。数字が独り歩きしないためにも目安として一定の幅（楽観的、最悪）で記載した方が良いと思う。
芦安地区の課題につきましては、人口推計の結果から空き家の増加、宿泊業の担い手不足の恐れなどの課題を示しております。 将来人口の推計の代表的な手法として、コーホート要因法やコーホート変化率法があります。コーホート要因法では、男女5歳階級ごとの生残率や純移動率、女性15歳から49歳までの5歳階級ごとの出生率などを設定して、将来人口を推計します。しかし、芦安地区の場合、人口約300人と小規模であり、上記データの把握には限界があるため、コーホート変化率法を使用しました。 また、子ども女性比は、将来人口の推計手順に記載しましたように、芦安地区の子ども女性比は、年次での変動幅が大きいため、南アルプス市の子ども女性比を使用致しました。		
15	芦安グランドデザインについての意見 4章について	4章　早川芦安連絡道路等開通に向けた地域活性化策 　提案への意見の前提として、次の点を考慮しなければならない。 ① 南アルプスは国立公園やエコパークに指定され、観光振興には自然環境の保護とのバランスを絶えず考えなければならない。 ② 日本は、これから一層高齢化が進み登山客の絶対数が減る中で、シニア層のより手軽な“ゆる山歩き”などが増える傾向にある。 ③ 一方、インバウンドは確実に増える傾向にある。旅行形態もFIT化が進み、気軽に中山間地にも訪れ、地域住民とふれあいを期待し、“人工的な自然”よりありのままの日本の自然に魅力を感じる傾向にある。 ④ 連絡道路が開通すれば、広河原へのアクセスはトンネルルートが主力になり、夜叉神林道は本来の用途（森林整備等）が主となる。 ⑤ 広河原へのアクセスは、芦安中継と奈良田中継の二つになり、登山客は双方に分散される。その選択は登山客の利便性、どこに魅力を感じるかである。 ⑥ 早川町の誘客戦略も注視しなければならない。報告書では、施策の検討を登山愛好家（南アルプス経験者等）のインターネット調査結果に基づいているが、今後新たに増大する、“ゆる山歩き”を楽しむシニア層やインバウンドの動向も視野に入れる必要がある。 　課題は、“ゆる山歩き”志向のシニア層やインバウンドを引き留める魅力をどのように創るか、ということではないだろうか。 ① 芦安への登山バス優位性確保を提案しているが、客の目線で見て先ずは芦安に魅力を創ることが先決である。客が少なければ企業は増便などできない。 ② 芦安地区の道路の大幅な改修工事を提言しているが、古い発想と言わざるを得ない。 高度成長期のように安易に、山を崩し自然を破壊するより、アクセス景観も地域の特色と考えた方が良い。インバウンドが魅力を感じるのは、人工的な手入れの少ないありのまま自然の残った日本である。国はH22年に過疎法の改正を行い、過疎債でソフト事業ができるようにするなど方針転換した経緯がある。

①ご指摘のとおり、ユネスコエコパークの理念に基づいた記述を追加します。
②⑥シニア観光客、③⑥インバウンドに関しましては、貴重なご提案として、取り入れさせていただきます。
芦安地区の魅力向上に向けた地域活性化策、旅行代理店と連携した登山ツアーの提供などの施策に、インバウンド、シニア観光客に関するご提案を反映させた事業案を盛り込みます。
④南アルプス林道の活用については、本市としても観光ルートとしての位置づけの他、災害時の避難路、迂回路としての必要性を記載し、事業案としても提案しています。
⑤芦安、奈良田への分散を想定し、トンネル開通前から芦安経由の魅力向上のための事業案を提案しています。
①日帰り温泉施設等の整備を検討して、魅力向上を図ります。
②芦安地区内の県道20号甲斐早川線は、部分的に狭隘で、すれ違いが困難な箇所がありますので、危険回避のための改修につきましては、県に働きかけていく必要がありますので、記述しています。

16	芦安グランドデザインについての意見 4章について ＜考えられる構想＞	＜考えられる構想＞ 先の前提を踏まえ、芦安の魅力創生には新たな観光資源の開発が必要である。 　北アルプス南部の上高地には登山客の10倍以上の観光客が訪れている。一方、アンケートから見る芦安の場合は訪問客の9割程度が登山目的である。登山客のみを追い求める限り、裾野地域の賑わいは創れない。北岳などの山々は芦安にありながら、温泉などのある人里からは南アルプスの雄大な景観は体感できなく、観光客を引き付ける魅力が乏しいのが現状ではないだろうかシニア層やインバウンド向けに、市営駐車場近辺～夜叉神峠周辺へのロープウェイ＊3の開設を提案する。そして、高谷山、かんば平等同じ山系のトレッキングルートの整備をすることである。早川町側も同じ山系にロープウェイ＊4を開設すれば、観光客の回遊ルートができ、双方のメリットにもなり得る。 ＊3自然に優しい乗り物で、自然公園内などに適しおり、グランドデザインでは頭出しをして置くことが必要ではないだろうか。この新たな魅力と温泉の組み合わせが芦安の“売り”になるのではないだろうか。今後20年を俯瞰した“グランドデザイン”ならば、観光面でもう少し大きい絵を描いて貰いたい。 ＊4観光振興で南アルプス市より先行しているお隣の早川町は、奈良田に観光客を誘致する方策を当然考えるだろう。早川町は、これまでに地域の紹介をNHK総合で全国に放送、先日は、NHKBS1の「Cool　Japan」で各国の外国人の早川町体験レポ―トを放送し、出席の多くの外国人に好評であった。なお、早川町では、創生総合戦略の中で山岳観光の推進としてケーブルカーの誘致（大唐松山?かんば平?）を挙げている。 ③ 提言では湧水による発電事業等を挙げているが、ナンセンスである。 本来トンネル工事は、湧水の可能性など綿密に調査して実施しなければならない。湧水が起きればトンネル工事費が増えるほか、場合によっては御勅使川等他の河川や飲料水源等への影響も懸念される。湧水が起きるか否か不明なのに、これを前提にした事業提案は計画にはなじまない。

・新たな観光資源として、「シニア層やインバウンド向けに、市営駐車場近辺～夜叉神峠周辺へのロープウェイの開設」をご提案をいただきました。このご提案は、南アルプスの雄大な景観を体感しやすくさせて、観光客を引き付ける魅力になる可能性を備えていると捉えております。また、移動手段の確保と観光資源づくりに向けて、現在、ロープウェイの導入を検討している自治体もございます。ただし、ロープウェイの実現には、自然保護や事業採算性の確保などをはじめとした課題も多いため、現段階での事業化は不可能と考えております。
・山梨県が富士河口湖町の若彦トンネルの湧水で実施している若彦トンネル湧水発電所では、140戸分の消費電力量を発電している実績もあるため、湧水した場合には県に対して働きかけるものとして事業案としています。

17	芦安グランドデザインについての意見 5章について	5章　山岳エリアに於ける誘客促進策 　① シニア層向けツアーの提供 　　ロープウェイ、ゆる山歩き、温泉をセットにした新たな観光資源に対するツアー企画は有意義であると思う。 　　直通路線バスは自家用車を使えないシニア層、インバウンドに備えるためにも、甲府駅からの直通便が重要で、インバウンドと住民とのふれあいの機会を作る面でも、住民、来訪者共用の路線構成にする必要がある。 その他、インバウンド対応取組みでは、WIFI環境の整備、SNS等による外国向紹介PRサイトの立ち上げも必要であろう。 SNSのサイト運用は、学生ボランティアや英語教育重視の中学校の実学教育にするのも意味があるように思う。

シニア層、インバウンドに関しましては、貴重なご提案として取り入れさせていただきます。芦安地区の魅力向上に向けた地域活性化策、旅行代理店と連携した登山ツアーの提供などの施策に、インバウンド、シニア観光客に関するご提案を反映させた事業案を盛り込みます。

18	芦安グランドデザインについての意見 6章について集落活性化策	6章　集落活性化策 　芦安の人口減少率は村時代に比べ、合併後明らかに大きくなっている。合併に伴う「周辺部の過疎化」は、全国的現象で予てより行政や多くの研究者が問題視している（調査文献多数）。 　原因は、村役場等の喪失による求心力の低下、公共事業の減等で地域に落ちる金の減少、公共サービスの低下、村役場の雇用消失など様々調査・分析したレポートが多い。 　先ず、芦安の場合の原因分析（転出者へのアンケート等も含め）をする必要がある。 　行政本来の業務は別としても、観光に関わる業務（観光ポータルサイト運営等）は、行政の支援の下に地域に残し、旅館以外の関連業務を育てる必要があるのではないだろうか。 　そうしないと、地域の雇用の創生も難しく、合併の理念の“6色の輝き”はモノクロームになってしまうのではないだろうか。 　アンケート結果を見ても今の芦安に住み続ける人は36%しかいない。しかも地域を支えている団塊ジュニア世代の定住志向は13%と極めて低い状況である。 　転入者も大事だが、転出者対策は急務であると考えなければならない。住民アンケートを基に、施策を挙げているが、これまで実施しているものの継続等が多く新鮮味がない。 これで人口流失が止まるとは到底思えない。

・商店やカフェ、簡易宿泊施設等の出店や進出が実現すれば、そこには少なからず雇用が創出できると考えています。雇用機会の創出を中心としながら、転出抑制に努めてまいります。

19	芦安グランドデザインについての意見 6章について 1．交通機関の充実施策	1．交通機関の充実施策 　住民アンケートでは世代に関わらず、この問題を取り上げている。 　路線バス廃止は、村時代に比べ落差が大きいものの代表である。 　JR（甲府駅）へ結ぶ直通路線バス自体が外部との繋がりの象徴で、村時代から生活面でも甲府市の学校、病院等などに選択肢が広がり、重要なインフラであった。 　早川町、小菅村などは過疎地での公共交通インフラの重要性を知っているから、苦しい財政の中で町村営バスを維持しているのである。 　提言では、コミュニティバスとの接続方式（市の考え）を追認しているだけで住民の期待に応えていない。 地域の賑わいは住民だけでなく地縁、血縁者などの往来も重要な要素である。 　必要とされているものは、乗換のない利便性の良い、従前の甲府直通路線である。観光客だけ特別扱いすることを止め、観光客と住民等の共用や貨客混載＊5、等、交通事業者の負担軽減を図るなど知恵を出した提言を期待したい。 　＊5昨年度、バス、タクシー等規制緩和で貨客混載が認められ、過疎地では宅急便、郵便と提携してコスト削減を図っているところも出ている。

・市ではコミュニティバスを運行して市内の交通弱者対策に取り組んでいます。芦安地区についても、有野地区の御勅使バス停と集落内をつなぐことで、対応しています。アンケート等で不便さについてのご指摘を受けていることから、随時、見直しを行い、山梨交通バスとの連絡改善を図っています。3月1日からのコミュニティバス時刻表の改正にあたっては、住民と観光客双方の利便性を考慮した設定としています。今後もよりよい路線設定に努めていきます。

20	芦安グランドデザインについての意見 6章について 2．芦安活性化の考えられる諸施策	2．芦安活性化の考えられる諸施策 1）夜叉神峠へのロープウェイの開設・・前記 2）転入者向けにAI、IOT等活用の新事業報告書の人口予想では数年間にわたり一家族でも若い世帯の転入があれば、人口維持には有効なことが示されている。 若者の関心がありそうな新しい技術を用いて、大学等の支援や学生ボランテイア等を活用し、山間地ならではの課題解決形の新事業を創設することが考えられる。有効であれば他地域でも展開も可能。そのためには、山間地でも事業の発展性のあるネット環境（光回線、WMAX、WIFI環境）のインフラ整備が是非とも必要である。＊6 ＊6　神山町（徳島県）は地デジ切り替え時に光回線整備（カバー率ほぼ100%）、これがサテライトオフィス等の先駆けとなった。 ①　サテライトオフィス、南アルプス観光ポータルサイト運用（海外向け紹介含む）・PR支援事業、インバウンド向けSNSの運用 ②　WIFI環境の整備 インバウンド支援や登山届のオンライン化 ③　遭難者の捜索支援事業 シニア層・インバウンドの登山者が増えるに従い、対応の準備が必要である（大学の支援）。 ビーコン（登山者所持）とドローン、AI組合せによる方式、ビーコンと山小屋（複数）受信でルート把握など数方式を大学や国が検討している ④　再生可能エネルギーの事業 再生可能エネルギーの活用の検討は、観光面からも地域活性化の面からも検討テーマとしては重要ではないか。国際機関（IRENA）の最新の発表では、再生可能エネルギーのコストは大幅に削減。最近は再生可能エネルギーへの転換は環境への配慮面だけでなく、経済的な選択レベルになっている、と指摘。小電力水力発電で地域おこしをしているところもある（岐阜県石徹白など） ・野呂川、御勅使川系の水力発電所新設広河原での電気需要（生活、EV用）、将来のロープウェイ電力需要など。 ・木質バイオマス発電所 県有林等の間伐残置材等利用で発電と熱のコジェネ方式（鉱泉の加熱用等でコスト低減） ⑤ 鳥獣被害対策事業 人手により対策は限界が見えている。新技術の応用を試みる。 ドローンとAI利用の方式など複数の大学等が研究、鳥獣駆除ロボット（例　狼型ロボット）等の開発検証

1）ロープウェイの実現には、自然保護や事業採算性の確保などをはじめとした課題も多いため、現段階での事業化は不可能と考えております。
2）ご提案いただいたネット環境の整備については、①サテライトオフィスの誘致やポータルサイト運用、②インバウンド対策や③登山支援等、様々な分野での活用が予想されますので、貴重なご意見として今後の事業化の際には参考にさせていただきます。
④再生可能エネルギーの活用については、トンネル湧水での発電を検討、県に働きかけていきます。
⑤鳥獣被害対策における、狼型ロボットのついては、市内でも中山間地域で既に導入した例がありますので、芦安地区においても検討していきます。

21	芦安グランドデザインについての意見 6章について 3．土砂災害警戒、特別警戒区域の指定見直しの交渉（対県）	3．土砂災害警戒、特別警戒区域の指定見直しの交渉（対県） 近年、芦安の住居区域の殆どが土砂災害警戒区域、ないしは特別警戒区域に指定されている。 　この問題は、今後、空き家活用等芦安の活性化に向けた施策の大きな障害になり得る深刻な問題である。 　住民の生命・身体の安全確保が最優先であることは言うまでもないが、過剰指定と思われる箇所も見受けられる。 　法律は、土砂災害からの生命、身体の保護が目的で、指定する場合は基礎調査を実施し、住民に結果（調査資料）を示して説明することが義務づけられている（市が実施） 指定に当たっては現地調査の前に該当地の土砂災害の履歴なども考慮することになっている（県が実施）。 　芦安の場合は、人家のないところが指定されたり、履歴も考慮されていない。県によっては、住民との話し合いを丁寧に行い、再調査をしているところもある。 　指定箇所を再検証し、過剰規制と思われる場所は訂正を申し出る。
・ご指摘のとおり、土砂災害特別警戒区域の指定に伴い、開発行為や建築物の構造などに関して制約が生じます。芦安地区においても、空き家の活用・流動化などに影響が及んでいる可能性があります。しかし、生命の安全確保が最優先されますので、指定区域の土地や空き家の活用などを検討されている方々には、構造強化により建築可能なことなども伝えてまいります。指定区域の土地所有者から土地活用に際して過剰規制とのご意見があった場合には、山梨県と協議します。		
22	絶景を有効活用	東側が開けた芦安地区の谷筋の地形では富士山の眺望は期待できないが、夜叉神峠からの白根三山の眺望や、星空観察など、絶景の有効活用
星空観察に関しては貴重なご意見として取り入れさせていただきます。夜叉神峠までは、条件さえ整えば冬場でも行くことができることから、冬季の登山ツアーの事業案に「スノートレッキングや星空観察会のモニターツアーの開催」を盛り込ませていただきます。		
23	交通環境に関するビッグプロジェクトを活かすべき	今後10年間で中部横断道の開通、早川芦安連絡道路の開通、リニア中央新幹線の開通などにより、芦安地区と首都圏との交通環境が大きく変わるが、「地区通過のリスク」でなく「人の行き来が増えること」と、前向きに捉えること
中部横断道の全線開通や県道甲斐早川線（早川芦安連絡道路）の開通により、観光客が早川町奈良田方面に分散することや、芦安地区を通過することが予想されます。ご指摘のように、これを人の往来が増える「好機」として捉え、リニア中央新幹線駅からの直通バス運行への働きかけや、芦安地区の魅力向上に向けた取り組みにより、活性化を図っていきます。		
24	SNSを通じて交流を発展させること	都市部の人達との交流にはSNSをきっかけとして利用し、発展させること
ご提案のように、SNSによる情報発信は非常に有効であると考えています。事業案でも芦安地区に訪れた観光客の方に、ブログやSNSで情報を発信していただいたり、南アルプス芦安山岳館を拠点として、芦安地区や南アルプス、ユネスコエコパークの魅力をPRしていくことを掲載しています。		
25	サテライトオフィスの誘致には高速インターネット回線が必要	徳島県神山町がサテライトオフィスの進出先として選ばれる最大の理由は高速インターネット回線の存在である。IT関連企業を誘致するためには、高速インターネット回線の整備が必要である
ご提案のように、事業案でもサテライトオフィスの誘致について、提案しています。高速インターネット回線の整備につきましては、今後、企業誘致に向け、検討していきます。		